

大会名 Competition	第21回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO, M-109	Year Month Day Time 2008 年 5 月 4 日 15 : 15
場所 Place	能代市総合体育館



チーム A 台湾 ●	12 1st 24 17 2nd 17 14 3rd 17 25 4th 14 OT	チーム B 延岡学園 ○
68		72

主審:Referee 藤垣 庸二 宮城県
副審:Umpire 東 祐二 東京都
石田 祐二 神奈川県
テーブル・オフィシャル:Table officials 男鹿工業

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	頼 國 維	CAP	1	0	0	1	4	4	×	内村 祥也	CAP	8	0	3	2	2
5	/	彭 俊 諺		3	0	0	3	3	5	×	汐ノッ ト ジョーラ		5	0	2	1	5
6	×	李 明 暉		7	1	2	0	3	6	×	和田 力也		18	2	6	0	3
7	/	林 力 仁		14	2	3	2	3	7	×	永吉 佑也		5	0	2	1	4
8	/	頼 柏 霖		5	0	2	1	0	8	×	川元 崇史		19	6	0	1	3
9	/	張 伯 維		16	0	8	0	0	9	/	横瀬 孝樹		13	1	1	8	2
10		黄 文 鉅		-	-	-	-	0	10		曾根田 夏樹		-	-	-	-	0
11	×	楊 曙		2	0	1	0	0	11		湯地 寛文		-	-	-	-	0
12	×	黄 家 明		16	0	8	0	2	12	/	大坪 将太		0	0	0	0	0
13	/	林 永 浩		1	0	0	1	1	13		長谷場 祐二		-	-	-	-	0
14	/	蘇 柏 彰		0	0	0	0	0	14		中村 友哉		-	-	-	-	0
15	×	周 柏 臣		3	0	1	1	3	15	/	エマン ブイ		4	0	2	0	1
				-	-	-	-	0	16		宇治橋 真悟		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	17		中小路 拓		-	-	-	-	0
				-	-	-	-	0	18		西口 直哉		-	-	-	-	0
コーチ		楊 宜 峰							コーチ		北郷 純一郎						
アコチ		謝 玉 娟							アコチ		内村 昌弘						
合計				68	3	25	9	19	合計				72	9	16	13	20

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* イントシュート 2P:2P* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第21回能代カップ2日目。台湾選抜と延岡学園、全勝同士の戦いとなった

第1Q、台湾選抜は3-2ゾーン。対する延岡学園はマンツーマンでスタート。序盤、台湾選抜は#12黄家明などの3連続ゴールで6-0とリードする。対する延岡は、徹底したアウトサイドシュートで対抗。#6和田、#9横瀬の3Pで10-9と追い上げる。互角の戦いをする中、残り6分、延岡学園は激しいディフェンスから速攻に持ち込み、#6和田の相手ファウルを誘ったバスケットカウント、連続ゴールなどで16-10とする。台湾はたまたずタイムアウトを請求するが、延岡学園の勢いを止めることができない。1Q終了間際にも#6和田のスティールからシュートが決まり、12-24と12点リードで第1Qを終了する。

第2Q、台湾選抜は延岡学園のアウトサイドを封じるため、マンツーマンにディフェンスを変更する。これが功を奏し、延岡学園の3Pによる得点はゼロに終わる。しかし、延岡もドライブやゴール下などで対抗。一進一退の攻防が続く。第2Qは互いに見せ場を作りながらも大きな動きもなく、29-41と12点差で折り返す。

第3Q、台湾選抜は3-2ゾーンに戻す。しかし、延岡#8川元の連続3Pが決まり、この試合最大得点差となる18点差となったところで台湾選抜はタイムアウトを請求。ディフェンスをマンツーマンに戻し、追い上げを図る。ディフェンスを変更した台湾はリズムを少しずつ取り戻し、#7林力仁のシュートなどで意地を見せる。第3Qは43-58で終了する。

第4Q、開始直後から延岡はイージーミスが目立ち、少しずつ台湾選抜にリズムが傾きかける。台湾選抜は#7林力仁、#9張伯維のシュートなどで残り6分には9点差まで追い上げるが、その後は互いに譲らず我慢の展開となる。8点差となった残り1分18秒、勝負所で延岡#6和田のドライブが決まり、10点差とするが、ファウルトラブルで相手にフリースローを与えてしまう。残り19秒にも台湾選抜#8宋宇軒にシュートを決められ4点差とされるが、延岡学園が68-72の4点差で逃げ切った。

延岡#6の個人能力の高さ、アウトサイドシュートの確率の高さが目立った試合となったが、勝負を分けたのはディフェンス力の差だと感じさせる試合であった。